圧延AZ31をLaboTexでVolumeFractionを求める

CubicはODFPoleFigure2ソフトウエアで再defocus補正を行ったが Hexagonalでは、ValueODFVFソフトウエアで再defocus補正を行います。 今回LaboTexと組み合わせているが、他のODFソフトウエアでも同様に扱えます。

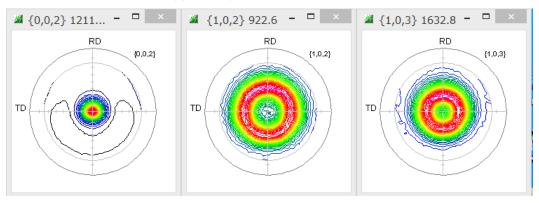
> 2019年09月30日 HelperTex Office

概要

CubicのAl, Cu, FeのVolumeFractoionを求めてましたが 今回は、Hexagonalの押し出しAZ31を扱ってみます。

使用する極点図

リガクRINT2000で測定した極点図



処理の流れ

ODFPoleFigure277トウエア

バックグランド除去

計算defocus補正

LaboTex

ODF解析

極点図のExport①

ValueODFVF

Rp%プロファイル評価

NGの場合、再defocus補正

L a b o T e x

ODF解析

極点図のExport②

ValueODFVF

Rp%プロファイル評価

LaboTex

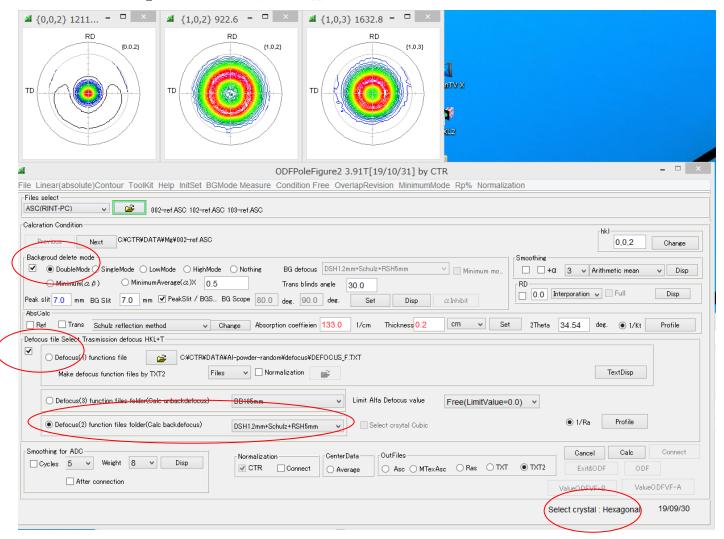
VolumeFraction計算

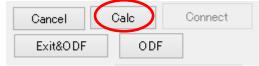
VolumeFractionから計算した極点図をExport③

ValueODFVF

極点図②と極点図③からRp%プロファイル評価

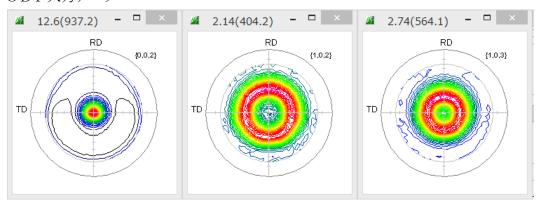
ODFPOleFigure2ソフトウエアで補正処理





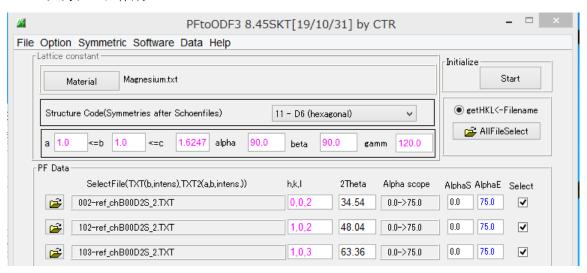
補正する。

ODF入力データ

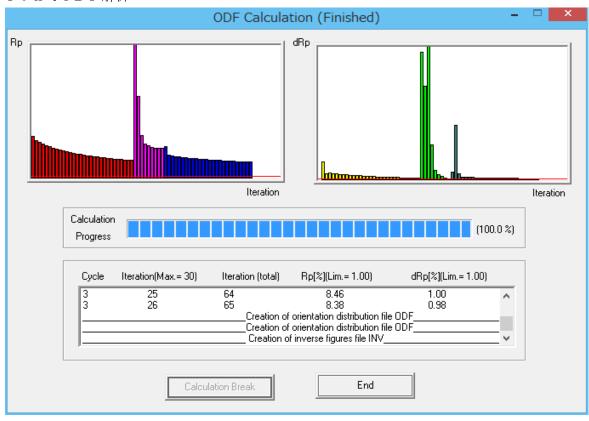




LaboTex入力データ作成

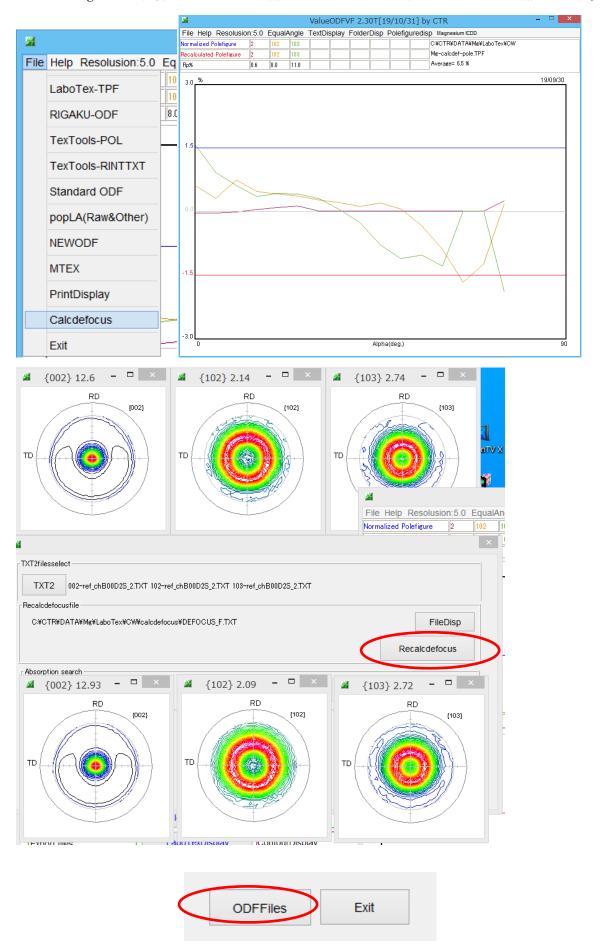


LaboTexでODF解析

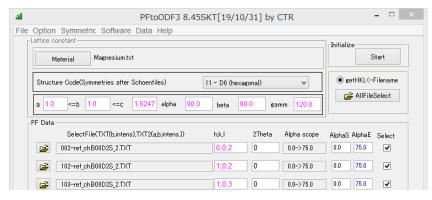


極点図をExportし、Rp%プロファイルを評価

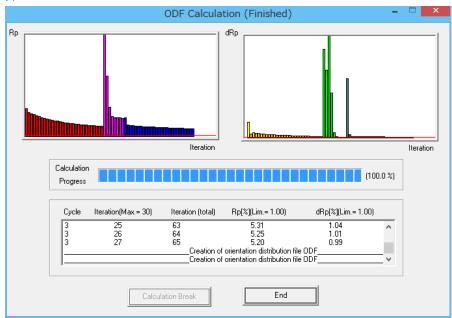
ODFPoleFigure2 の計算 d e f o c u s 補正が足りないので再度 d e f o c u s 補正を行う。



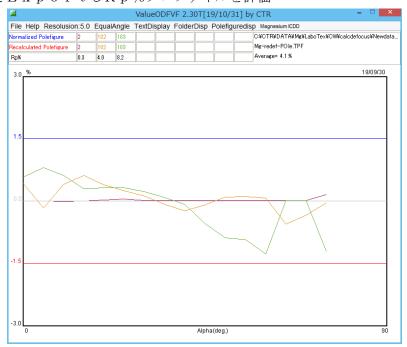
再度 LaboTex入力データを作成



ODF解析

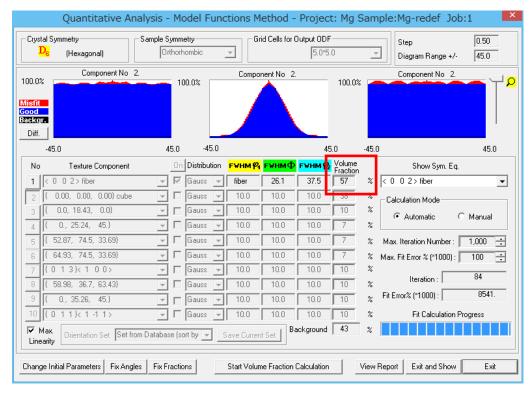


極点図をExportしRp%プロファイルを評価

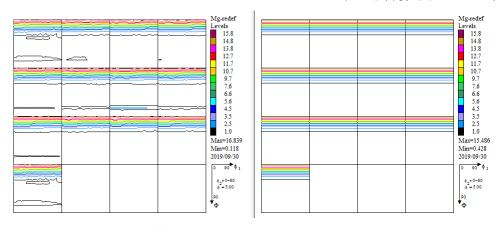


Rp%プロファイルが±1.5%以内になり、VolumeFractionを求めます。

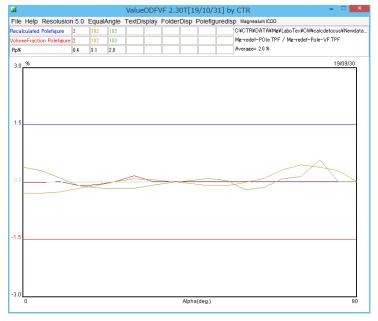
VolumeFraction 計算



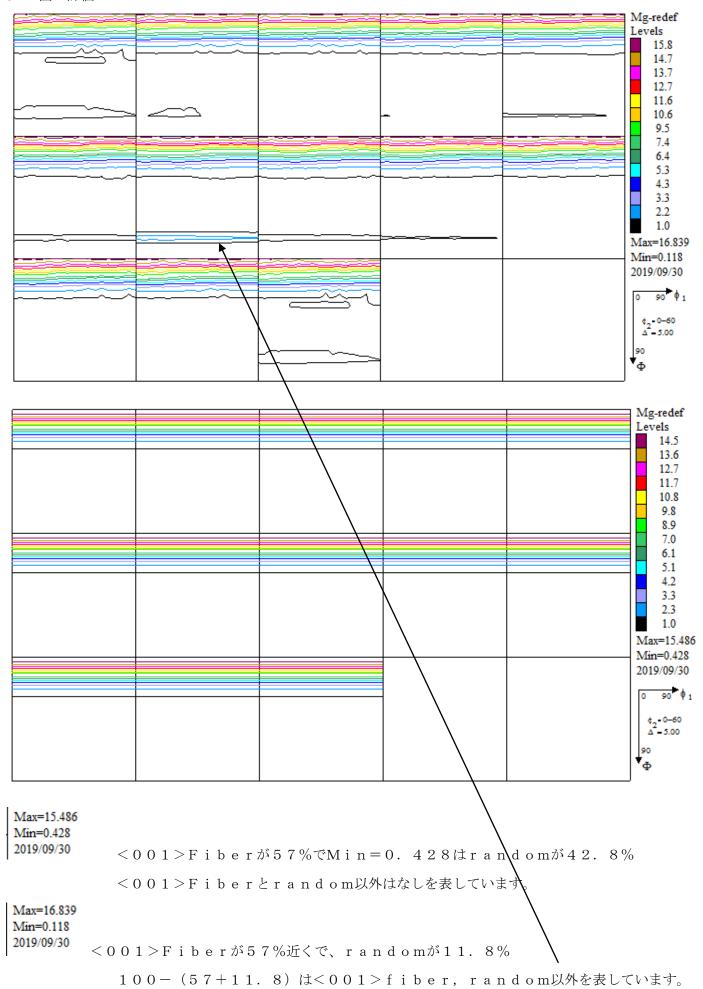
VF57%から計算された ODF 図

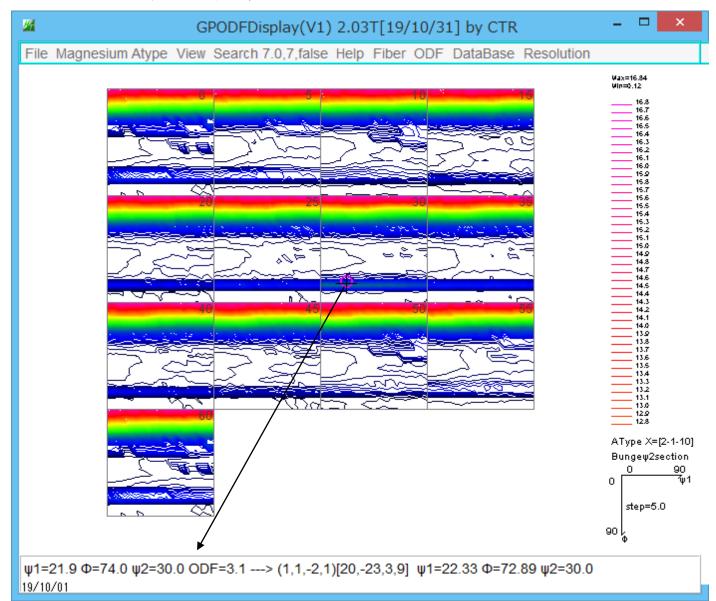


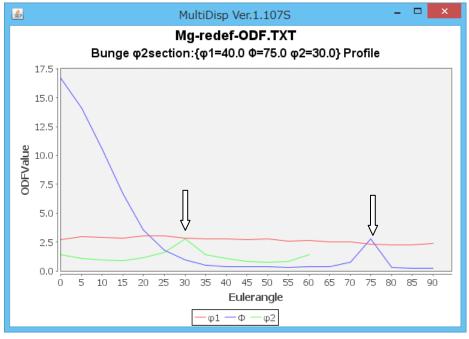
VolumeFraction から計算した極点図をExportしRp%プロファイル評価



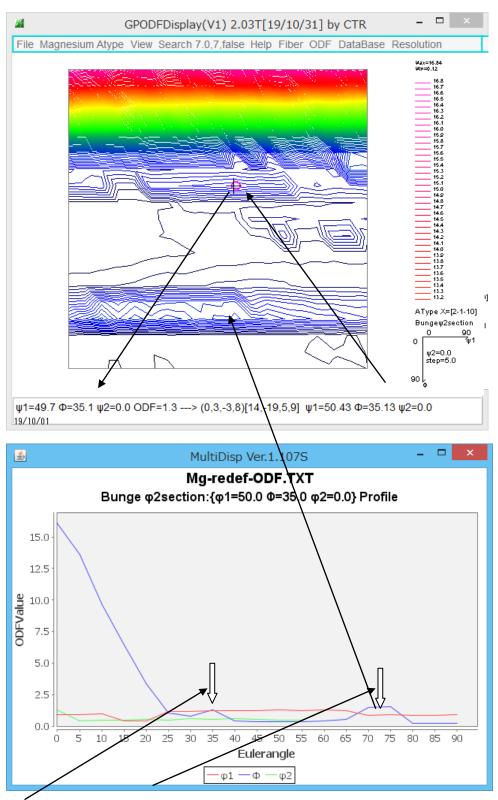
VolumeFraction結果は正しいと評価されます。





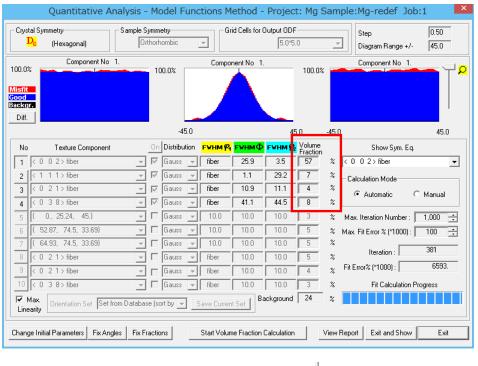


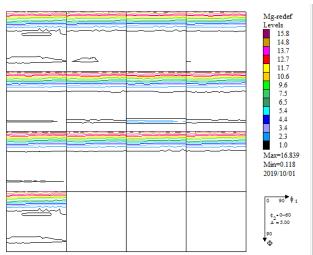
 ${111}$ 面配向 (ϕ 1がフラット) が存在しています。

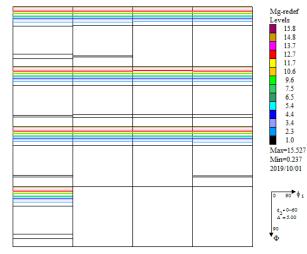


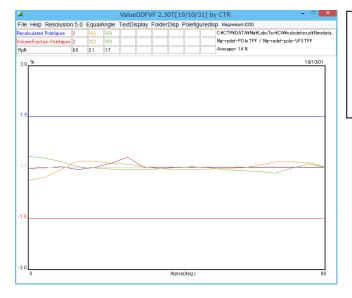
 $\{0\ 3\ 8\}$ 、 $\{0\ 2\ 1\}$ 面配向 $(\phi\ 1$ がフラット) が存在しています。

{001}、{111}、{021}、{038} 面配向のVolumeFractionを計算



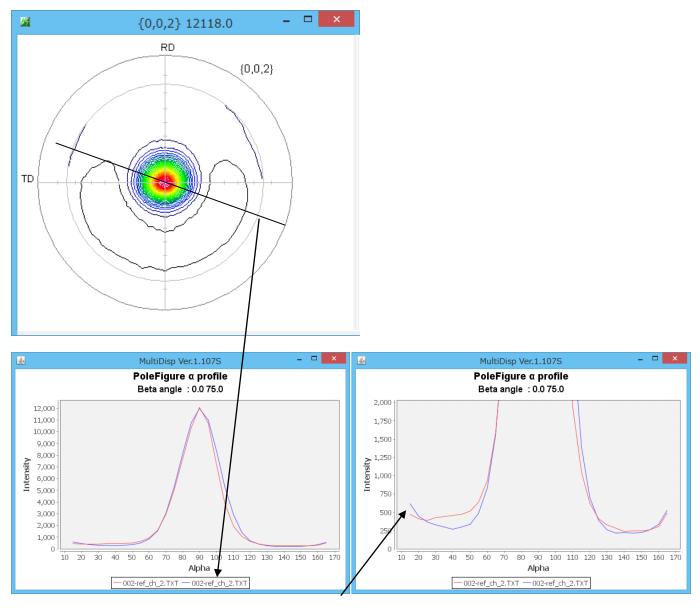






{038} を追加することで {002} の広がりが抑えられ <002>FiberのVF%が 下がりました。

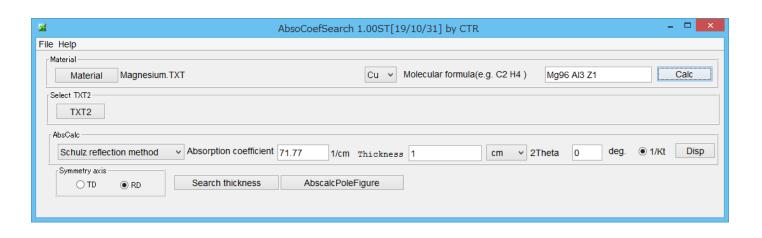
測定データの見直し



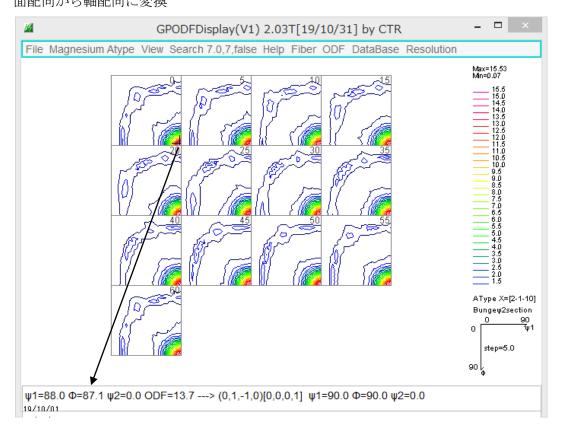
 $\beta = 75$ 度のプロファイルで極点図の $\alpha = 15$ 度付近が盛り上がっている。

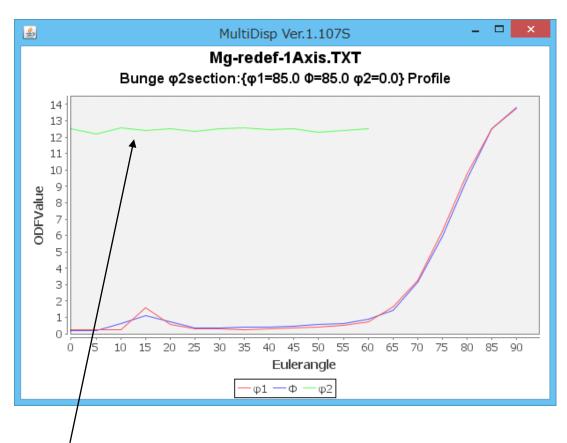
単純な {001} の面配向ではありません。

吸収の影響で極点図の外周付近が上がることもありますが、AZ31の吸収係数は71.77あり MT=1以上あるので、吸収の影響はありません。



付録 面配向から軸配向に変換





 ϕ 2方向がフラット ϕ 1、 Φ 方向はが15度と90度付近に盛り上がりがあり軸配向が認められます。